

ワンランク上の病院をめざして

私たちは、患者さんの意思を尊重し、高度で良質な医療を提供することによって、地域社会に貢献します。

nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp

Message メッセージ

がん治療の現況

■概要、Q&A、スタッフ紹介 etc.

Information お知らせ

■にしびようTopics

第15回 県民公開講座を開催しました

■特集

退院前・退院後訪問指導料

■院長エッセイ「四季雑感」

時代の変わり目

■医療技術NOW!

「阪神むこネット」のバージョンアップ

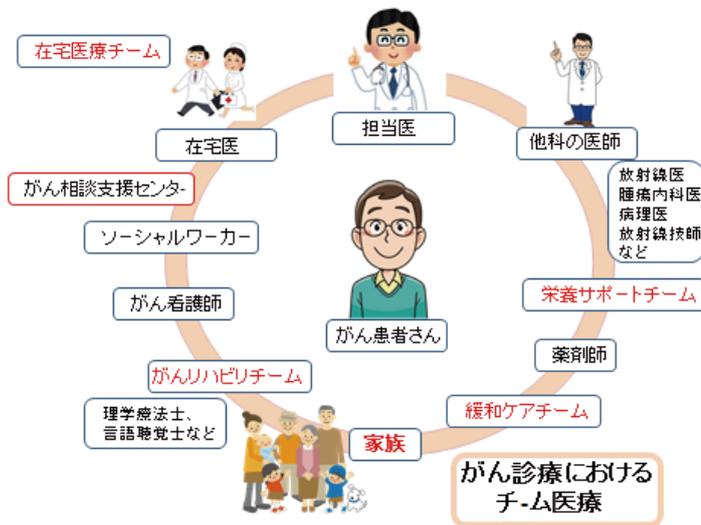
■絵の中の風景を旅するvol.17

にしびよう美術館館蔵品を毎回紹介



がん治療の現況

がん診療運営委員長・副院長・外科部長:小林研二



目 本人の2人に一人が‘がん’に罹患、3人に一人が‘がん’で死亡する時代といわれています。当院は兵庫県から指定された「がん診療連携拠点病院」で、その名称にふさわしい活動をするを心掛けています。その役割を下記に提示します。

- I. 高度がん診療体制の提供(集学的治療などの高度医療の提供、緩和ケアの実施など)
- II. 研修体制の整備(院内外医療者への教育、市民へのがんの啓蒙、県民公開講座などの実施)
- III. がん患者に対する相談支援及び情報提供(いわゆるがん難民を出さないために)

当 院では、主に消化器外科・内科、乳腺外科、泌尿器科、婦人科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、腫瘍内科、血液内科、放射線科で初期の段階から終末期まで、がん診療を担当しています。

近 年のがん診療では、医師だけではなく多職種による「チーム医療」が不可欠です。診断、治療方針決定に際しては、以前はいわゆる主治医の意思のまま計画、実施されていましたが、今では、カンサーボード(多職種による‘がん診療’における検討会)にて、診断の結果を踏まえて治療方針をチームで決定するようにしています。診断、治療に際しては図に示したように、担当医、看護師、薬剤師、担当以外の医師、放射線技師、理学療法士、医療ソーシャルワーカーなどの多くの職種の方が、一人の患者さんのためにチームを組んで、担当医師とともに、社会生活への復帰なども含め、実際の診療に当たっており、患者さんの生活の質を損ねることなく、がん治療が円滑にできるように日々、研鑽、実行しています。

がん治療について質問! INTERVIEW



Q がんと診断されました。手術と放射線療法を受ける予定ですが、治療費が高いと聞きこれからの生活が心配です。

A 治療費は健康保険の対象となりますが、入院と外来、検査の種類や使用する薬剤により支払額が変わってきます。一定の金額を超えた場合、高額療養費で払い戻しを受けることができます。また、事前に限度額適用の申請をすることもできますので、がん相談支援センターにご相談いただければと思います。

Q 外来で抗がん剤治療を受けています。治療前からがんによく効くというサプリメントを摂っています。このまま続けてもいいのでしょうか。

A 市販のサプリメントと抗がん剤との併用で効果を認められているものはなく、併用により肝機能障害など起こす恐れがありますのですぐに服用をやめてください。抗がん剤治療後も健康食品など摂られる場合は、主治医に継続して良いかどうか確認をしてください。

(看護部次長・がん化学療法看護認定看護師：日野 千奈美)

最新情報

肝切除ナビシステム

肝臓の癌腫には肝切除術が行われます。肝臓の構造は木に似ており、血管や胆管の管が一つの鞘(枝)となり、幹から末梢に広がっています。

近年、造影剤を使用した高解像度CT画像を特殊なソフトウェアで解析することにより、病巣を切除するのにどの枝をどの面で切ればよいのか、術後どれくらいの肝臓を残すことができるのか、

などを立体的な画像としてみえるようになりました。今では手術中に立体構築画像を見ながら肝切除を行っています。



(消化器外科部長：横山 茂和)

スタッフ紹介



- 小林 研二 副院長・外科部長・がん診療運営委員長(前列右2番目)
- 福永 睦 外科部長・緩和ケア委員長(前列左2番目)
- 楢原 啓之 内科部長・化学療法部長(前列右1番目)
- 福島 寿一 内科医長・緩和ケア担当(前列左1番目)
- 日野千奈美 看護部次長・がん化学療法看護認定看護師(後列左1番目)
- 渋谷はるみ がん化学療法看護認定看護師(後列左2番目)
- 大原 晴子 10階病棟看護師長(後列左3番目)
- 畑 裕美 医療ソーシャルワーカー(後列右2番目)
- 高津 秀子 がん放射線療法看護認定看護師(後列右1番目)

第15回 県民公開講座を開催しました

11月12日(土)に宝塚アピアホールで県民公開講座が行われました。

今回は「もう一人で悩まない 更年期に・・・!」という内容で、「更年期のお悩みあれこれ」「更年期から始まる血管の病気」「キレイと健康のひみつ ～知って得する食事術～」を、産婦人科医師、循環器医師、管理栄養士の方々に講義していただきました。少し難しいお話もありましたが、参加された皆様は熱心にお話を聞いておられました。

宝塚では初めての試みで、会場設定など参加者の方にはご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。今後も引き続き宝塚の皆様に、健康情報をお届け出来るよう、努力して参りたいと思います。ありがとうございました。



(総務部総務課：海津 智孝)



退院前・退院後訪問指導料 について

H28年度診療報酬の改定により、患者の地域における円滑な在宅療養への移行及び在宅療養の継続のため、患者宅などを訪問し、在宅での療養上の指導を行った場合に算定できるようになりました。当院でも退院前後の患者宅を訪問する体制整備を行いました。訪問は、病棟の看護師・退院調整看護師・入院中に介入した認定看護師が行います。在宅からは、ケアマネジャーや訪問看護師などの同席を依頼します。

A氏(70代)は食道亜全摘術後の独居患者。腸痙は自己管理でき自宅退院となりました。経口摂取はとろみをつけて市販のレトルト粥を摂っています。入院時にとろみを足していたため退院後も継続しますが、レトルト粥は入院時の粥より硬い形状となり食べにくさを訴えられていると思われました。また、痩せを認めています。そこで当院言語聴覚士から食事形態について訪問看護師へ情報提供し、経口摂取状況の確認を依頼、主治医と必要栄養量の調整、上部消化管内視鏡検査が指示されました。自宅は、患者の生活拠点として病棟で行うカンファレンスとは違った視点で療養環境を見直すことができ、患者さんは実際に生活を行い生じた困りごとを具体的に相談できる機会となります。病院看護師は患者さんの暮らしの場で適切な医療が行われているか確認できました。退院後訪問指導は病院内ではわからなかったことを医療者・患者ともに知ることになり在宅医療を支える情報源となります。

(地域医療連携センター課長：福田 和美)

四季雑感



寒 さが最も厳しくなる頃、暦でいうと大寒の最後の日が節分で、これは立春の前日に当たり、本来、節分は「季節を分ける」という意味があるそうです。

変わり目という事では、政治や経済も歴史的な変わり目にあるようです。というのは昨秋米国大統領選挙がありましたが、その結果、今後は米国をはじめとして、いくつもの国々が内向きになっていくことが懸念されています。

現今、医療についても、過去と未来を分ける大きな変化が訪れようとしています。そのひとつがコンピューター、つまり人工知能(AI)を用いて、病気の診断精度を上げようというものです。AIは関連のあるすべての文献を瞬時に検索して、最も可能性が高い病名を選び出してくれます。

がんの治療についても、一人ひとりの患者さんの「がん組

織」にある遺伝子の変化を網羅的に調べることで、最も治療効果が高い方法を選び出すということができるようになります。その試験的な運用がすでに行われはじめていますが、そう遠くない将来に私どもの病院でもそのような先進的ながん治療を行なえるようになると思っています。

チェスなどにおいてもAIの優位性はよく知られているところですが、人間には数万もの論文を短時間で漏れなく調べあげることは無理ですから、AIの検索能力をうまく活用することにより、医療の質は今よりも格段に向上していくと期待されています。一方では、事によると医療の主役がAIに移ってしまうのではないかと、心配する人たちも出てきています。

ではコンピューターと人間の違いはどこにあるのでしょうか?その一つの答えとして、「脳の働きはファジーなので応用が利くが、コンピューターはガチガチで応用が利かない」ということだそうです。あまりピンときませんが、要は人である患者さんのための医療ですから、患者さんと医療に携わる人たちが主役であって、AIはあくまで優秀な補助手段という事になりそうです。



兵庫県立西宮病院 院長
河田 純男



医療技術 NOW!

西宮病院の「NOW」がわかる。

【阪神むこネットのバージョンアップ】

地域の連携先開業医様との強力な連携ツールとして、阪神南地域で展開されております「阪神むこネット」について、9月末まではCT、MRI等について「撮影画像」のみの情報共有となっていました。10月1日より「撮影画像に対する診断レポート」を共有させていただき、バージョンアップを行いました。これにより、共有内容は、投薬、血液検査、画像及びレポートとなりました。また、「阪神むこネット」の情報共有画面には、テキスト記載が共有できる「白紙」のスペースがあり、これにより、簡単な文書のやりとりも実現出来ます。より、多くの先生方にご利用いただけると幸いです。

(医事企画課長 村尾 昇)



絵の中の風景を / 旅する vol.17

<http://www.nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp/>

当院外来ロビーや各病棟には、地域の方々や入院患者さん、そのご家族などからのご寄付による200点以上にのぼる絵画が飾られています。"にしびょう美術館"の貴重な"館贈品"は、当院ホームページ内の「にしびょうWebミュージアム」でも常設展示していますが、これらの作品の中から、毎回、ちょっと気になる1作品をとり上げてご紹介いたします。一緒に、絵の中の風景を旅してみませんか。



展示場所

本館2階
処置室前



琵琶湖の北に位置する余呉湖の冬の風景です。朽ちた古船に雪が積もり、雪に覆われた山々と暗く垂れ込めた冬空が滋賀県湖北地方の厳しい冬の気候を表しています。

余呉湖は琵琶湖の一部のように思われがちですが、二つの湖は古戦場として有名な賤ヶ岳で隔てられています。山々で囲まれた余呉湖は湖面が穏やかなことから「鏡湖」とも呼ばれ、また、日本最古の羽衣伝説の舞台としても知られている湖です。湖にはフナ、コイ、ウナギ、ナマズなどが生息しており、近年では冬場はワカサギ釣りのシーズンとして賑わうのだそうです。今は静寂の中にあるこの古船もかつてはこうした漁で活躍してきたものなのでしょう。

(総務部:伏見 達)

編集後記

編集室



春とは名ばかりでまだまだ寒い日が続いております。いつも地域連携便り「はまかせ」をご愛読いただきありがとうございます。今回は「がん診療連携」についてご紹介いたしました。これからもワンランク上の病院を目指して、職員一同励んでまいります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

(8階病棟看護師長:竹本 恵)

HAMAKAZE
2017 Vol.17

兵庫県立西宮病院

〒662-0918 兵庫県西宮市六湛寺町13番9号
TEL:0798-34-5151(代表) FAX:0798-23-4594

地域医療連携センター FAX:0798-34-4436
E-mail:chiiki-kn@hp.pref.hyogo.jp

nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp

2017.2 発行